

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470800194		
法人名	(有)カナガミケアリンク		
事業所名	グループホーム花水木		
所在地	宮城県角田市角田字中島上170-21		
自己評価作成日	平成25年10月15日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成25年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

花水木の理念にも掲げている“ゆったり 楽しく 共に寄り添う生活”を日々目指しケアに臨んでいる。生活の中に体操や散歩等身体を動かす機会を取り入れ、近隣の方と顔なじみの関係や健康面でも風邪をひかない体力づくりが自然と出来ている。日々の中に季節感や刺激を感じて頂けるようお花見・納涼祭・クリスマス会等企画し、入居者、家族、地域の方と共に楽しむ機会を設けている。また家族との繋がりを大切に、自宅への帰宅やお墓参り、家族団らんの一時的を過ごして頂けるよう働きかけている。地域との交流として、地区や保育所の行事に積極的に参加している。入居者の方の健康管理として、主治医往診が行われており、医療との連携を図りつつ、コミュニケーションを十分に図れることで安心感が得られている。またデイサービスも受け入れており、開かれたグループホームだと感じている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

和風の平屋建てのたたずまいが落ち着きを感じさせ、中庭の紅葉が季節を感じさせている。居室から近くの国道を走る車を眺めるのを楽しみにしている方もいる。理念の「寄り添うケア」の実践のため、入居者の重度化に対応したケアのあり方等について、代表、管理者、職員全員参加の下で、月1回(午後5時以降)勉強会を開催している。毎月発行の広報紙(花水木通信)では、運営推進会議の内容を掲載し、家族や地域等への周知に努めている。夜間の緊急時には、隣接の運営法人の社員寮から協力を得られる体制を築いており、家族にも安心感を与えている。7月の参議院議員選挙には、入居者の投票をかなえる支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **グループホーム花水木**)「ユニット名」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に寄り添うケア」を理念として掲げ、スタッフ一人ひとりが「寄り添う」とはどういうことか考え、日々のケアに実践できるよう努めている。勉強会にて理念を再構築し、生きがいのある生活につなげられるようなケアに努めている。地域の一員であることも忘れず交流を図っている。	職員全員で作り上げた理念は「共に寄り添うケア、地域の一員である生活」等である。月1回の勉強会では入居者が重度化傾向にあることから、それに沿ったケアのあり方や理念の見直しについて話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に積極的に参加している。保育所との交流やボランティアの折り紙教室、毎日のゴミ出しや清掃当番等、責任を各自持ち交流を円滑に保てるよう心掛けている。また花水木の行事にも参加を促し互いに交流を図っている。近隣の方に野菜やお花を頂いている。	町内会に加入し、毎月発行の広報紙を地域に配布している。散歩での近隣住民へのあいさつや町内のごみ当番や清掃へも参加している。地域の敬老会では入居者が得意のハーモニカを演奏し、好評を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に花水木を理解して頂くために回覧板に花水木通信を入れ見て頂いている。地域の方々の面会、見学では花水木流のゆとりケアを見て頂き、ありのままを受け入れお互いが心地よい環境を発信している。デイサービスを行っており地域で生活する認知症の方とその家族の方への支援にも努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を実施し、ご家族・地域・行政の方々に参加して頂いている。日々の生活の様子や会話に至るまでちょっとした変化も報告し、参加者からの意見を頂きケアの向上の為に活かしている。会議の内容を周知すべく花水木通信を用いて開示している。	2ヶ月に1回開催し、市又は地域包括支援センターは毎回参加している。双方向で進められた会議の内容は広報紙で公表されている。会議メンバーの地域代表者は区長1人のみで、欠席することが多い。	地域住民代表として町内会役員のほか、民生委員や老人クラブ代表等もメンバーに加えることをお願いしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、助言を頂いている。また実際に入居者の方と関わって頂き理解して頂いている。制度的な事で分からない点は連絡を取り、理解できるまで説明して頂いている。認知症サポーター養成講座のフォローアップ等要請に応じ講話等協力している。	運営推進会議には市又は地域包括支援センターが毎回出席し、運営等について助言を得ている。実地指導でも介護更新手続等で指導を受けている。今回の外部評価にも市が同行し、両者の関係は良好である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則として行っていない。日中玄関の施錠は行なっておらず自由に出入りできるようになっている。地域・家族が安心できる安全な環境を提供し、個別ケアを充実させることで身体拘束をしないケアを実践し、家族の協力の元、入居者が穏やかに過ごすことができている。	職員は拘束の弊害を理解しているため、日中は鍵をかけていない。玄関脇の壁にさり気なく掲げられた鏡が入居者の出入りの確認や見守りに一役買っている。帰宅願望の方には家族の協力を得て自宅や自分が経営していた会社へ出かける支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の身体状況を細やかに観察する目を持ち、又、虐待を誘発するリスク等、広い視野で利用者を観察し、スタッフが充分注意を払い防止に努めている。スタッフ同士お互いの言動等注意し、ストレスをため込まないよう話し合いの場をもつよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を利用している方がいることとおおむね理解はできているが日常生活自立支援事業に関してはなじみがなく学ぶ機会を設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時解約時共に重要事項説明書に沿って一つひとつ説明し、利用者及び家族が納得するまで説明し理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け、重要事項説明書やホーム内に掲示している。また面会や運営推進会議の際にご意見を頂き、ケアに反映できるよう努めている。家族・利用者からの声はスタッフ間で共有し合い、個別ケアとして実施するように意識している。	意見は運営推進会議や面会等で把握している。会議には複数の家族が出席し、活発に発言している。家族から「職員の顔と名前を知らせてほしい」と要望があったので、広報紙に顔写真入りの名前を掲載した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例勉強会に代表も参加し、職員一人ひとりの思いを話す機会を設けている。また業務について見直し、ケアの方向性を統一し“表は家族、裏は介護のプロ”としてのケアを目指している。	事業所の運営は、全職員が参加する勉強会で話合っている。重度化に対応した「寄り添うケア」の実践のため、BS法(集団思考法)のアイデアで得られた「自然体で笑顔を引出すケア」を目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員少人数ですので一人ひとりの持ち味をしっかりと把握し評価している。労働時間等についても常にチェックしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のケア・考え方を大切にしている。それぞれの長所を伸ばし、レベルアップのため研修への参加を強く勧めている。又、それを活かして報告会等を行ない共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流することは大変必要な事だと感じている。同グループ内の施設やGHの職員等と積極的に訪問し合い、交流を深めている。またお互いの勉強の場とし共に参加し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のバッググラウンドを事前にご家族より伺いそれを参考にしながら本人との会話や表情等を通して情報収集し不安や要望を知り、その方にとって安心できる方法を見つけケアに繋がられるよう関係性を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人とは別に話し合いの場を設け、ご家族のありのままの思いを伺うようにしている。本人はもちろん、ご家族にとって何が不安で困っているのかを表情や言葉から察し、思いを知るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方にとって今一番して欲しい事、必要なサービスは何かを見極め、地域資源の活用や他施設との連携を図り対応している。意向を十分に確認し生活の質を向上できる内容となるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の全てにおいて生活の知恵を入居者それぞれから教えて頂き、日々の生活の中で発揮できるよう支援している。介護される立場に固執せず、元気をもらい、笑いあう、一緒に生活する環境で共存している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や往診報告等、本人の近況を報告すると共に、行事への参加や本人と家族の大切な時間を過ごして頂くための環境づくり、本人の思いを尊重し自宅に帰る等、随時家族と相談し、家族との大切な時間を少しでも多く持てるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に会いに来て頂けるよう家族を通してお願いしている。またこれまでの人間関係や地域性も把握するよう努め、家族と一緒に馴染みの場所に出向いたり、知人に会えるよう、家族の協力を頂き支援している。	元の職場仲間、免許更新で知り合った人等の来訪がある。馴染の菓子店や産直市場に出かけたり、初詣の参拝、孫の結婚式や近隣の知り合いの葬式にも参加している。海外の孫からの電話もあった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの居場所や居心地の良い場所を把握するよう努めている。交友関係のある方向同居の行き来が出来るよう支援したり、会話がスムーズに図れるようスタッフ一人ひとり工夫している。意思疎通が困難な方へはスタッフが仲介し、孤立する方がいないようレク等活用しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用を終了しても会いに行く機会をつくったり、家族と連絡を取り合う等これまで築いてきた関係を保つことができている。また、地域ぐるみでのお付き合いになり、これまでのように野菜のお裾分けを頂いたり、お話をしたりとお付き合いが続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から一人ひとりの思いや希望を引き出せるよう会話を図っている他、言葉には表せない行動として表現されているものを察し、受け止めるよう努めている。入居者一人ひとりを見つめ様々な視点を持ってスタッフがそれぞれ意見を出し合い、本人にとってより良い生活に繋げられるよう努めている。	ジャケットを着こなしダンディーな格好で家族と面会したり、現職時代(郵便局)の腕カバを着用した姿で日々の生活を過ごしていたり、本人視点で支援している。参議院議員選挙の投票をかなえる支援もしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から情報収集するだけでなく家族からバッググラウンド、性格等の情報を頂き、その人らしさが保たれるようケアに活かしている。スタッフ全員で把握できるよう記録に残し、情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人を良く知るためにコミュニケーションを図り、行動の裏にある思いを考えるように努めている。様々な角度から見ることで心身の変化を受け止め、小さな事でも気づきを大切にスタッフ間で共有し把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	勉強会にて課題やケアについて、本人や家族の意向を反映しながら意見を出し合い、「その人にとって一番大切なこと」を話し合い、ケアに活かせるよう努めている。	3ヶ月毎に計画の見直しを行い、月1度は家族等から意向を確認している。定期的に往診医の指導を受けケアに反映している。見直しでは「こんなケアは嫌、こんな暮らしをしたい」という視点を大事にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での気づきやありのままの言動を個別記録に残している。また疑問や改善に向けての工夫を申し送りノートを活用し情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ADLの低下、嚥下機能の低下等求められるニーズに対し、柔軟に支援方法を検討・工夫し提供している。本人の希望や行動に応じて気分転換も図れるよう配慮し、思いを尊重し本人が満足して頂けるようケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に積極的に参加している。月に1回折り紙ボランティアや花水木行事で舞踊等のボランティア等来所し交流を図っている。隣接する金上社員寮の方の協力を得て消防訓練や緊急時等協力頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居にあたり花水木の協力機関へ家族同意の下主治医を変更して頂き、緊急時にも適切な処置を受けられている。月2回往診に来て頂き利用者の状態や特変寺随時相談し適切な判断を頂いている。	入居者や家族の同意を得て運営法人の病院(内科・外科等)が協力医になっており、月2回の往診がある。緊急時は24時間対応である。今年4月の早朝、急病が発生した時は病院から副院長が駆けつけ事なきを得た。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフの気付きや目に見える変化を受診連絡ノートに記入し協力医療機関のDr、Nsに相談し受診や治療がスムーズに行えるよう指示を頂いている。受診の際には担当Nsより助言・指導頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、家族・担当Ns・相談員との情報交換を行い状況の把握に努めている。また本人の安心のために面会に出向きコミュニケーションを図っている。混乱や戸惑いが出ないように早期退院に向け病院側で配慮して下さっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の思いを第一に考え本人の希望を優先している。医療的な処置が必要な場合は病院での対応になることを説明している他、重度化の場合は今後起こりうるリスクの説明も含め本人・家族へ理解を頂いている。重度化に対するホームの方針を成文化し説明し、看取りも行っている。	前回の外部評価では「終末期の対応方針の文書化」が課題であったが改善している。昨年7月から協力医との提携により、本格的に終末期ケアに取り組んでいる。現在、入所7年目で寝たきりの方の支援をしているが、食欲もあり小康状態を保っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同系列の施設や病院で勉強会・研修会が開かれることもあり参加している。利用者も重度化してきている現状もあるため急変時や事故に備えてスタッフ一人ひとりのスキルアップのため積極的に勉強会等参加していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを確認し、スタッフ全員認識を高め行動できるよう訓練を行っている。夜間スタッフ1人体制の夜勤のため、緊急時社員寮の協力が得られるよう理解頂いている。地域の高齢化に伴い避難訓練は現在隣接する社員寮の方に協力頂いている。	避難訓練は年2回実施している。近隣は高齢者世帯が多いため、災害時や緊急時の協力は得にくい状態なので、隣接の社員寮(運営法人の関係者)の協力を得る体制を築いている。消防設備や備蓄も万全である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として常に尊敬の気持ちを持って関わりを持ってケアに臨んでいる。傾聴、丁寧な言葉遣い、笑顔で接するよう心掛け、馴れ合いの関係やプロ意識に欠けることのないようスタッフ一人ひとりが指摘し合い注意を図っている。	本人が希望する呼び方をしている。経歴の「部長、先生(洋裁)、お寺の奥さん」で呼んでみたり、実家が酒屋の方は「店の屋号」を用いたりしている。職員が支援する散髪や身内が行うエステを楽しみにしている方もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何を求めているのかを良く知り、時間をかけて思いを満たせるよう、話を聞いたり、スキップを図り自己決定できるよう努めている。小さな事でも時間をかけ満足感を感じて頂けるようにケアしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思うよう行動して頂くことを大切に、スタッフの都合に合わせるのではなく一人ひとりの都合に合わせた柔軟な対応を心掛けている。個々に異なったペースや言葉掛けの対応にも工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服を選び、季節感のあるおしゃれを楽しむことができるようお手伝いさせて頂いている。スキンケアや化粧。髭剃り等、その人らしい身だしなみが整えられるよう、好みを周知し個別ケアに活かしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや季節感を忘れないよう節の食材を考慮しメニューを考え、楽しい食卓になるよう努めている。利用者から伝統料理を教えて頂いたり、野菜の下ごしらえから片付けまで協力して行っている。嚥下能力に合った食事形態を検討し対応している。	献立は入居者の好み等に配慮し、知合いの栄養士から指導を受けている。食事内容は家族の評判も良く、調査日の昼食に出された「はらこめし」は入居者からも好評であった。郷土食では入居者の力を活かしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に配慮し食事形態(刻み・ミキサー・補食等)で対応している。食べる量は個別に体調に配慮し見極めながら配膳している。水分はその日の気温や体調、摂取量を把握した上でこまめに摂って頂くよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日毎食後歯磨き・口腔ケアを実施している。ブラッシング不十分な方へは介助もを行っている。義歯使用者は夕食後洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をつけており、一人ひとりのパターンの把握に努めトイレ誘導を行っている。排泄の失敗はあるがオムツに頼らず、トイレの習慣を活かし、自立に向けた支援をしている。歩行困難な方に対しても負担のない移動介助等の研修を受け対応に努めている。	30分単位で排泄チェックをしている。廊下での歩行訓練によって足腰をきたえ、自力排泄を促している。着きがなく「そわそわ」する時はトイレ誘導している。排泄介助では入居者の負担が少ないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の摂取や食物繊維を多く含むメニューを考え提供するようになっている。水分もこまめに取って頂く他、個々の体調に合わせ、体操や歩行訓練も行っている。排泄記録から排便が無い日が続いた際には腹部マッサージや下剤服薬によるコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望がある方は配慮し個別に関わりを持てる大切な時間としてゆっくりとした一時を過ごして頂けるようリラックスできる空間づくり(音楽を掛けたり、入浴剤使用等)、言葉掛けを行っている。拒まれる方へは声掛けを工夫しアプローチを掛けている。	毎日の入浴もあるが、隔日の方が多い。風呂嫌いの方はいないが、その時の気分で拒否する例はある。時間をずらしたり、職員を変えたり入居者の状態に合わせ支援している。脱衣所では音楽を流している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状態、日中の活動時間のバランスを見ながらお昼寝の時間を設けたり、気持ちよく休んで頂けるよう、室温・照明の管理を行っている。寝付けない時は無理強いせず、ホットミルクを提供したり、ゆっくりお話を伺うことで安心して休んで頂けるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報の一覧表を個々に薬局から頂いておりスタッフは各自目を通し把握に努めている。服薬はすべてスタッフが管理しており、手渡し内服するまで見守り対応している。症状の変化はすぐにDrに報告し、指示を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの残存能力を活用し得意なことや役割をお願いしている。強制はせず楽しみながら手伝って頂けるようスタッフも一緒に行っている。自然な働きかけを心掛けることで意欲を引き出し得意な事を披露することで笑顔になれる瞬間が得られるよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物等、個別で外へ出掛ける機会を設けている。家族にも協力を頂いて職員では対応できない場所(遠方・自宅へ戻る・外泊・墓参り)への支援も行えるよう働きかけている。また出たがらない入居者の方には庭先に誘ったり、ウッドデッキで食事する等工夫している。	周辺の散歩、馴染みの商店や産直市場への買い物、初詣・花見・外食等の外出支援がある。結婚式や葬式への出席、選挙の投票など特別な支援もしている。広いウッドデッキでのひなたぼっこや語らい、庭の草むしり等は五感刺激の場となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できることへの支援として、手元にお金を持っていることで安心される方は金銭を自己管理し、好きな物を自分で選んで使える喜びを共有し合えるよう支援している。また必要なものや欲しいものがある時は一緒に買物に行き、立替え金から購入し、ご家族に請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ電話や連絡したい人へスタッフが仲介しかけれるよう支援している。また遠方に住む家族から電話がかかってくることもあり、家族や友人との関係をこれまで通り築いている方もいる。葉書を家族とやりとりすることが日課の方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明る過ぎず暗過ぎない照明であり自然光も差し込み、庭の木々を眺めることができている。温度は外との差があまりないように配慮している。季節感を花や折り紙の作品を飾り、季節のメリハリをつけた空間づくりに努めている。	中庭の紅葉が季節を感じさせ、居間の古い柱時計にも趣がある。室内の光、音、臭い、温・湿度等は適切である。緊急時に備えて隣接の社員寮への通報ベルがある。調査日には玄関口で入居者が来訪した親戚の方と談笑しながら見送りする光景が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室も自由に使用でき、廊下の端に椅子を配置したり、ウッドデッキにくつろげる場所を設けたり、気分転換できる場所づくりに心掛けている。仲良しの入居者同士居室を行き来することもあり居心地の良い場所を個々が理解し活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物、これまで使用していたものを持って来て頂けるよう家族にお願いしており、タンスの他、自ら作成した作品、思い出の手紙等貼り付けて安心出来る空間づくりができている方もいる。孫のように可愛がっているお人形をベッドに置き、抱っこして眠っている方もいる。	馴染みのタンスがあり、引出には本人にも分かるように衣類別のシールが貼られている。自分も出席した孫の結婚式の写真が飾られている。部屋から近くの国道を走る車を眺めるのを楽しみにしている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使い慣れた物の配置は変えず混乱させないように努めている。暦は日めくりのものを使用したり、トイレは表札をつける他、夜間迷うことのないよう明りをつける等工夫している。危険の無いよう手摺りの場所を見極め設置している。		